

令和5年度第3回市民活動推進委員会 事前質問及び意見

議題（1）令和4年度印西市市民活動支援センターの事業報告について

No	頁数	質問・意見	回答
1	P2	<p>・クレームの内容はどんな事柄か。</p> <p>・（4）②クレーム対応 別添3 3月23日について詳しい「内容と対応」を知りたい。</p>	<p>市民団体から助成金のことで相談を受けた際、スタッフが相談者を不快にさせる発言をしてしまった。</p> <p>後日、相談者からセンター長へクレームを頂戴してすぐに、市、本社へ報告し、翌日、本社担当者、センター長、当該スタッフでご自宅へ謝罪に行き、お許しを頂きました。その後、全スタッフへ接遇研修を実施しました。</p>
2	P4	<p>5(2)実施体制 R5.3にコーディネーター1名が退社されていますが、令和5年4月以降は1名体制で運営上支障はないのでしょうか。</p>	<p>・ジェイドックカンパニー影山氏と連携して支援業務を行っているため、業務に支障は出ておりません。小林センター長が生涯学習コーディネーターの資格を取得したり、次の後任育成へ向け、ボランティアコーディネーター力検定等の資格取得サポートや、あびこ市民活動ステーションと連携して支援サポート体制を強化しております。</p> <p>・欠員した人員補充に関しても採用活動を進めており、ほぼ決定しております。</p>
3	P4	<p><人員配置>2名体制が4.3人になっているのは何故でしょうか。</p> <p>元々、無理なのではないでしょうか。</p>	<p>早番2名、遅番2名の計4名という意味です。市民活動の支援、サポート、主催事業の準備、実施をしていくうえで必要な人員を配置しております。</p>
4	P8	<p>新しい市民活動の視点、気づきはどんなものか。</p>	<p>ワガママ会議は、地域課題の解決に向けての一つの新しい手段であるという事です。</p> <p>午後のワガママ会議では、大学生の「1月3日に公園でお正月遊びをする」というワガママが同じグループの協力により実現しました。「こうだったらいいけど、どうしたらいいの分からない」とあきらめていることが、小さなワガママを口にだすことで、協力者や理解者が増え実現に向かい、地域課題の解決につながるのだと感じました。</p> <p>ワガママ会議が、市民活動をやってみたいと思っている方の後押しにつながるよう、今後も続けてまいります。</p>

No	頁数	質問・意見	回答
5	P10	駅前花壇では牧の原、日医大、小林駅前に行わないのか。	中央駅前花壇の花植えは、事業者である千葉ニュータウンセンターが主導して取り組んでいるもので、支援センターは、花植え活動をしている団体などに声をかけて一緒に協力しています。みんなでまちづくりという協働の取り組み事例として報告をさせていただきました。
6	P14	子供の農業体験で、紹介した後のフォローが欲しい（結果が良ければ市街地の子供たちに経験させたい）	立ち上がったばかりの団体であり、取り組んでいきたい選択肢の一つとして子ども農業体験会を考えているところで、現状では具体的な活動にはいたっておりません。
7		子ども食堂、紹介するだけでなく市場に出せない野菜等を有効活用することで、農家の人との交流する仕組みが欲しい	支援センターといたしましては、市場に出せない野菜等を有効活用し、農家の人との交流をしていくことにつきましては、子ども食堂を実施している団体などへご提案の内容を紹介していくことから取り組みたいと考えております。
8	P18	12月20日 何の活動でしょうか。	他市で漫画・アニメを用いて地域を盛り上げる活動をしている方々で、印西市に住む様々な人たちとつながり、印西市を盛り上げたいという活動であり、印西市で団体として活動していけるようにアドバイスし、支援センターへ団体登録して頂きました。
9	P19	アイデアのたまごを市民活動推進課はどのように受け取ったか	アイデアのたまごについては、提案者から提出があった場合、市ホームページや市民活動支援センターで公開するとともに、提案者と課題共有・情報収集・事業計画作成・組織づくりなどについて協議します。また、庁内で実施計画事業に携わる担当部署と協議するなどして、協働事業の可能性を探っています。
10	P20	市からの委託料の算定根拠を示されたい	指定管理料の上限額を14,848千円としております。内訳としましては人件費10,175千円、事業費339,750円、事務費130千円、管理費622,490円、また印刷費等として300千円、また一般管理費として10%を計上した上で消費税を算出し、印刷費収入200千円を差し引いております。

議題（２）令和５年度印西市市民活動支援センターの事業計画について

No	頁数	質問・意見	回答
11	P2	基本的考え方（管理運営体制図）警察署、消防署のほかに教育委員会、農協、商工会などもっと幅広い情報交換が必要ではないか。	ご提案ありがとうございます。 P.10の事業報告、千葉ニュータウン中央駅前花壇花植えでご報告させていただきましたが、市民活動団体が市民、企業、行政など多様な主体とともに連携して課題解決に取り組んでいけるよう、いろいろな機会を活用して、市と相談しながら進めていきたいと考えております。
12	P2	（３）数値目標 10,000人は厳しくないでしょうか。 意気込みをお伺いしたい。	参考資料の2022年度来場者推移を参照していただくと、コロナ前の2019年度は来館者が10,764人となっています。2020年度は5,411人となっていますが翌年度より来館者が増え、2022年度は9,307人とコロナ前に戻ってきています。2023年度になりまして、団体活動も活発になってきていますので、市民にセンターを知っていただき団体が利用しやすくなるよう主催事業など行い、目標達成できるように取り組んでいきます。
13	P6	自主事業の実施計画で、もっと積極的に市民活動推進の誘導、啓発をして欲しい。	2023年度は団体紹介冊子を刷新します。公共施設に配ったり、支援センターの広報紙であるだんご通信の町内会回覧、パネル展の開催などを通じて、市民の方に市民活動や団体を知っていただき、参加していただけるように努めていきます。
14	P6	5(2)実施体制について、P2管理運営体制図にある本社サポートの設備、広報、事務所の各担当者も、スタッフ名簿に記載する必要があるのでと考えます。	記載可能です。市と相談して次年度以降記載について検討させていただきます。

No	頁数	質問・意見	回答
15	P12	R4事業報告とR5事業計画を比較し、労務費が経費の大半を占めている。人数が増えているわけではないのに、金額が上がっているのはなぜか。	毎年の最低賃金の改訂に対応していくためです。またスタッフの増員はないが総労働時間数に減数がないためです。対話を主とした業務な故、労務費を減らすことは難しいと考えております。
16	P12	事業費予算について132万円の予算だが、R5年度にだんごまつりを実施するとなれば、フォーラムの実績の倍以上の予算が必要になると思うが、十分なのか。	R5年度はだんごまつりの実施を見送っているが、団体紹介冊子の作成や、わがまま会議などの代替事業を計画している。R6年度にだんごまつりを実施する場合は代替事業経費を削減することで捻出することになります。
17		事業計画に、「印西市地域コミュニティ基本方針（令和4年3月策定）」は、どのように反映されたのか。	印西市地域コミュニティ基本方針で掲げているとおり、コーディネート機能の強化として、市民活動支援センターを中心に、団体間の連携や市との協働の促進を図っております。

No	頁数	質問・意見	回答
18		市の総合計画に基づいて、①SDGへの取り組み、②コミュニティ活動の推進、市民参加意識の向上への対応が欲しい	市の総合計画に関する3点のお尋ねについて、市民活動の普及、支援という観点からお答えをします。
			①SDGsへの取り組みについては、支援センターの登録団体はSDGsのいずれかの目標に沿った形で活動に取り組んでいると認識しています。SDGsについては、官民一体となった取り組みが必要でありますので、支援センターとしては主催事業などを通じて活動団体と意識を更に共有するなど取り組んでいきます。また、地域づくりの人材育成を目標とした、主催講座の中にSDGsのゲームなどを取り入れておりますので、今後も引き続きSDGsへの取り組みを進めて参ります。
			②コミュニティ活動の推進については、地域の多様性や地域課題を知ることが重要と考えます。そこから「地縁組織」や「テーマ型組織」をどのようにコーディネートできるかを研鑽し、相談業務に積極的に取り組んでいます。団体から、協働事業などの相談が多くなってきていることを実感しており、相互の機能を発揮できる機会を増やせることも多くなると考えます。
		市民参加意識の向上については、市民活動団体と行政との協働がさらに進み、協働によるまちづくりが達成されていくことが重要と考えております。 そのような考えのもとに、市の企画提案型協働事業について、支援センターとしては市民活動への周知や個々の団体への説明、あるいは、相談などを実施するとともに、P.11の事業計画にもありますとおり協働事業支援講座を行うなど、市との連携、協議を密にして取り組んでおり、今後とも充実に努めていきます。	
19		定年後の高齢者が元気で働くまち「印西」を目指して高齢者の再教育、トレーニングを行い働く場への復帰により、心身とも健康なまちづくりへの取り組みが欲しい	センターには定年後の方が活動の場を求めて来館されることがあります。その場合、本人の希望に添った団体など紹介しています。また高齢者を対象にしている団体の中には、参加者のサポートをすることで、高齢者が自分の得意なことを生かした新たな団体を立ち上げた例もあります。センターは定年後の高齢者が心身ともに健康で地域で活動していけるようサポートしてまいります。